

JPS 航空郵趣研究会展 2018

AEROPEX 2018

— エアメールの世界展 —

会期：2018年9月29日(土)～30日(日)

両日共 午前10時30分から午後5時まで

会場：東京・目白・切手の博物館3階 スペース 1&2

主催 公益財団法人日本郵趣協会 航空郵趣研究会

☆☆☆ ご挨拶 ☆☆☆

JPS航空郵趣研究会は、1994年に創設した「航空部会」を引き継ぎ、今年度で24年目を迎えることができました。今年度も、航空郵趣研究会の会員による郵趣研究活動の成果を報告し、皆様からのご指導ご鞭撻を戴くために、「JPS 航空郵趣研究会展2018」を開催する運びとなりました。

昨年度は、1917年にイタリアで世界最初の航空切手(加刷)が発行されたのを記念して、企画展示「航空切手発行100年記念」を行いました。続いて、アメリカから正刷の航空切手が発行されて今年で100周年になることに因み、研究会展の中心課題を「エアメールの世界展」として研究報告を行うことに致しました。

昨年同様に、会員が日頃収集や調査・研究に取り組んでいる航空郵趣関係のマテリアルを駆使して、多彩な発想や多様な切り口から作品化を試みたタイトル18作品の展示をご覧戴き、航空郵趣の楽しさや奥深さを見だして戴けますと大変な喜びです。

なお、この機会に航空郵趣研究会の新規会員になって戴き、共に郵趣活動ができることを心より切にお願い申し上げます。

JPS航空郵趣研究会 会員一同

<JPS 航空郵趣研究会展 2018 作品目録>

1. 立川賢一(東京都) JPS航空郵趣研究会の活動記録(1フレーム)

平成6年(1994)に発足した「JPS航空部会」の事業内容を引き継いで、平成29年(2017)4月1日から「JPS航空郵趣研究会」として活動を続けています。「JPS航空部会」時代から今日まで24年間の主な活動実績をリーフで紹介し、日本郵趣協会の展覧会(JAPEXやスタンプショウ等)をはじめ、航空関連施設で作品展示や事業協力を実施してきました。航空郵趣関連の講演会や出版協力、また研究会会員による研究発表作品展(AEROPEX)等の活動も展開しています。

2. 中嶋弘美(東京都)・梅村亜津子(千葉県) エアメール・ステーションナリー(1フレーム)

エアメールは通常の国内向けの手紙とは違い、エアメールだとすぐわかる国内向け郵便にはない表記が必要です。そのために特別にエアメール用の封筒や便箋、航空書簡、「航空郵便」のスタンプやラベルがあります。実務的なもの、デザイン性に富むもの等エアメールを楽しくするステーションナリーを紹介します。

3. 中嶋弘美(東京都)・安田利希良(東京都) ポスクロ(1フレーム)

世界のあちこちから絵葉書をもらうことが好きなポルトガル人のパウロは、13年前にそれを目的にしたプロジェクト「ポスクロ: Postcrossing」をスタートさせました。世界の誰かにポストカードを送り、世界の誰からポストカードが届くこのプロジェクト、今では世界218か国に73万5千人のメンバーがいます。ポスクロとは何か? これを知ったら、あなたもポスクロを始めたくなるでしょう。

4. 武内尚人(東京都) エアメール・カバーを集めていたら(2フレーム)

エアメール・カバーを集めるでもなく集めていたら、色々なテーマで纏めることが出来そうなことに気がつきました。そこまでは良かったのですが、いざ取纏めに入ると、1フレームを埋めることが出来ないテーマが殆どで弱りましたが、ホテル及び五重塔航空切手をテーマに、2フレーム分纏めることが出来ました。

5. 齊藤勝男(東京都) 日本航空切手と航空郵便(2フレーム)

日本の航空切手は戦前1919年に1種2枚(加刷)、1929～34年1種5枚(芦ノ湖航空)、戦後7種32枚(キジ航空5枚、五重塔航空銭単位5枚、立山航空銭単位6枚、五重塔航空円単位5枚、立山航空円単位6枚、大仏航空4枚、五重塔コイル切手1枚)が発行された。航空機を描いた戦前の芦ノ湖航空、戦後の五重塔航空銭単位・円単位、立山航空銭単位・円単位、大仏航空切手の航空郵便に使用された国内、外国宛てカバーを中心に展示しました。

6. 鳥越 徹(岡山県) 立山航空(銭位)(1フレーム)

立山航空(円位)切手が発行される1952年7月1日までの3ヶ月間に、立山航空(銭位)の額面6種の切手; 55円、75円、80円、85円、125円、160円に「欧文三日月型日付印(時刻表示2時間刻型)」が押印された使用済みのコンプリート。

この欧文三日月型日付印は郵政省告示第102号で1952年4月10日から外国交換局6局(①東京中央、②東京中央・羽田分室、③横浜、④大阪中央、⑤神戸中央、⑥博多)で使用された。立山航空(円位)切手発行前の1952年4月10日から6月30日迄の使用例は少ない。

・立山航空(銭位)切手は1952年(昭和27)2月11日に、55円、75円、80円、85円、125円、160円の6種が発行され、同じ年の7月1日に立山航空(円位)切手が発行された。

・適応料金期間は1951年(昭和26)12月1日から1953年(昭和28)6月30日で、書状とはがきは同一料金であった。

7. 鳥越 徹(岡山県) 立山航空(円位)(1フレーム)

立山航空(円位)55円1枚貼り外国第2地帯(フィリピン)宛航空便書状で、TOKYO 1952年 12月6日付けの欧文三日月型日付印です。当時の第2地帯はフィリピン、グアム、タイ、アラスカ、南洋諸島で適応料金期間は、1951年(昭和26)12月1日から1953年(昭和28)6月30日迄の約1年7ヶ月であった。

8. 奥 将雄(埼玉県) 空港フレーム切手(1フレーム)

少ないですけど、日本の空港をフレーム切手で、そこに行った気分になってください。

9. 立川賢一(東京都) 日本の航空書簡(1949~1994)(3フレーム)

航空書簡(エログラム)は、郵便料金を表す料額印面が印刷してある封筒兼用の便せんで、おもに航空郵便として使用します。日本では、1949年当初は「AIR LETTER」の印字でしたが、1953年から「AEROGRAMME」に書き換えられました。1994年までの航空書簡を年順に揃えました。収集が進み、昨年度の展示数から3倍になりました。

10. 鳥海真一(神奈川県) エアメールと第2次世界大戦(2フレーム)

エアメールは第2次世界大戦で大きな影響を受け、国家による検閲で信書の自由も奪われてしまった。エアメールを早く確実に輸送するための方策が実施された状況を当時の実通便カバーで紹介する。

11. 齊藤勝男(東京都) AIR MAIL(1フレーム)

飛行機による郵便輸送の始まりは1911年2月18日、インドのアラハバードで開催された万国郵便博覧会の行事として初の公式航空郵便とされています。その後飛行機の発達で各国で飛行機の郵便輸送が始まり、アメリカの正刷航空切手の発行により航空機の描かれた切手を添付された航空郵便が多く見られるようになった。

12. 池原都夫(東京都) マーチンタイプ香港切手のエアメール(1フレーム)

香港では1862年から当時のビクトリア女王をはじめとして、歴代の英国王の切手が香港返還の年、1997年の1月25日まで発行されてきた。その中で1973年6月から数回に渡り、図案変更され発行されたマーチンタイプのエリザベス二世の香港切手を取り上げ、エアメール・カバーを展示してあります。この切手図案は英本国のアーノルド・マーチンがデザインしたマーチンタイプの英本国切手を真似て作成されております。当時の香港が英本国に、大切にされてきたことがうかがえます。

13. 樋口 豊(東京都) カタパルト航空便(2フレーム)

北大西洋(欧州~北米)の無着陸定期飛行を出来る飛行機がまだ存在しない1929~35年まで、北大西洋の郵便物を早く届けるため、北ドイツロイド(汽船会社)とルフトハンザが、旅客船上のカタパルトから軽水上機を発進させ、246回の航空便輸送を行った。その開始から終焉までの概要を紹介します。

14. 伊藤裕介(千葉県) AIRSHIP MAIL(飛行船郵便)(1フレーム)

飛行船で運ばれた飛行船郵便の作品です。飛行船郵便はツェッペリン飛行船の「ツェッペリンカバー」が有名ですが、他の飛行船でも多くの郵便が運ばれました。本作品では第2次世界大戦後の余り知られていない飛行船郵便を中心にまとめました。

15. 齊藤勝男(東京都) エンパイア航空郵便計画(5フレーム)

1934年12月20日イギリスは大英帝国域内相互のエアメール追加料金なし一律1½dで届けるという、エンパイア・エアメール・プロジェクトにより計画された。計画の実施にインペリアル航空は新設計されたショート・クラス・エンパイア飛行艇が製作され、初飛行の1936年から1939年欧州戦線勃発により英国海外航空(BOAC)への合併までの流れを、搭載された南アフリカ、インド、マラヤ、オーストラリア、ニュージールランド線のカバーで追ってみました。

16. 飯野 明(東京都) カーチス JN-4 ジェニー(3フレーム)

100年前の1918年5月13日に、カーチス・ジェニーを描く世界初の正刷航空切手が、15日の定期航空郵便輸送の開始に伴って発行されました。第1次世界大戦での飛行機の発達に遅れをとったアメリカが追いつくこととなるジェニーを描く切手、関連する航空郵便、記念印、題材にした漫画なども紹介します。

17. 伊藤裕介(千葉県) 航空機を描いた風景印(2フレーム)

航空郵趣の分野は切手やフライトカバーなどが主流ですが、風景印にも多くの航空機が描かれていて、簡単に収集できるマテリアルです。現在、郵便局で使用されている風景印にも民間の航空機、自衛隊機など色々な航空機の図案があります。本作品では、現行の風景印に過去の風景印で入手できたものを加え、まとめてみました。

18. 立川賢一(東京都) 生き物達を運ぶエアメール(5フレーム)

航空郵便(エアメール)専用使用として航空切手が発行されましたが、料金が適正であれば、普通切手や記念切手などもエアメールに使用できました。そこで、ほ乳類、鳥類、海生生物、昆虫類そして植物の図柄切手が貼付されたエアメールを展示し、生き物達が楽しんだと思われる空の遊園ワールドにお誘いします。

19. 立川賢一(東京都) South America Airmails by Graf Zeppelin(5フレーム)

ドイツの硬式飛行船「グラーフ・ツェッペリン号」は、1930年から約8年間、定期航空路を開設するなどにより南アメリカに大量のエアメールを運びました。この展示では、グラーフ・ツェッペリン号が運送したいわゆるツェッペリン・カバーを年順に配置して、郵便物の空輸における偉大な実績を辿ります。

20. 作成準備中のおもな郵趣関連品等

1) 記念小型印の押印サービスを2日間行います。

2) 記念フレーム切手(額面62円と82円、各2種)を発行します。ただし、それぞれの額面の切手には、フレーム図柄上に「JPS AEROPEX 2018」、または「AEROPHILATERY of JPS」の文字入りとなる2種を作成するので、合計4種のフレーム切手となります。

3) 記念カバー用の台紙(カシエ入り封筒と、はがきサイズのカード)を頒布します。